

第13回フィジカルヘルス・フォーラム報告

大阪大学保健センター センター長 守山敏樹

平成23年3月17、18日の両日、大阪大学銀杏会館において第13回フィジカルヘルス・フォーラムが開催された。本フォーラムは全国国立大学保健管理施設協議会の常置委員会であるフィジカルヘルス委員会



のもと年に一回開催されるもので、大学の保健管理に携わる医師・専門職が全国より集い本邦大学学生・職員の健康上の諸問題を自由に討議することを目的としている。今回は大阪大学保健センター長 守山がコーディネーターとして全体を企画し、準備・運営の実務を大阪大学保健センターが担当した。

この度は、直前3月11日に発生した大震災により開催が危ぶまれたが、関係者間で協議し、予定のプログラムに加えて、大規模災害に対する大学の備え、発生時の対応、支援などの討論する場を設定することとなった。

1日目には、大学の安全衛生管理に関わる法令に関するシンポジウムが行われ、本学安全衛生管理部 山本 仁教授より「国立七大学安全衛生担当者会議の対応と今後の法改正への動き」と題して国立七大学安全衛生担当者会議より国立七大学副学長会議へ提出された中間報告の概要が報告された。続いて今回の大震災を受けた緊急企画が行われ、山本教授より大阪大学の震災支援への取り組みと国立大学間の連携状況について紹介があり、活発な討議がされた。



2日目は、学生支援・保護者支援に関するシンポジウムと特別講演及び学生・教職員の自殺についてのシンポジウムが行われた。学生支援シンポジウムでは本学から学生支援ステーション学生生活相談ユニット 太刀掛俊之准教授より「学生支援におけるリスク管理—キャンパスカートの予防から—」について、また障害学生支援ユニット 松原 崇助教より「障害や慢性疾患のある学生への修学支援—合理的配慮 (reasonable accommodation) の観点から—」の講演があり、活発に議論された。



本フォーラムは主にフィジカルヘルスを担当する参加者が多いが、それぞれ大学の産業医や医療スタッフとして学生支援や学生・教職員のメンタルヘルスにも関与する場面も多く、大変勉強になる有意義な内容であるとの評価をいただいた。当初110名の参加予定であったが、東北、関東地方からの参加が震災のため困難となり84人の会員・オブザーバーの参加となった。震災のため不参加となった会員にも後日報告書を送付し、今後の参考としていただく予定である。